

---

## 平成28年度予算第一特別委員会質問要旨

---

○ 局別審査 平成28年3月10日

### 質問者（質問順）

- 1 荒木由美子 委員（共産党）
- 2 伊波俊之助 委員（自民党）
- 3 鈴木太郎 委員（自民党）
- 4 中島光徳 委員（公明党）
- 5 小粥康弘 委員（民主党）
- 6 山浦英太 委員（維新）
- 7 青木マキ 委員（無・ネ）
- 8 大桑正貴 委員（無保会）

こども青少年局

# 局 別 審 査

## 1 荒 木 由美子 委員（共産党）

### 1 子どもの貧困対策について

- (1) 子どもの貧困の実態を改善するために新年度予算が編成されたと考えるが、この点での見解について伺いたい。
- (2) 新年度予算に「子どもの貧困対策の推進」として4項目あるが、その内容について伺いたい。
- (3) ひとり親家庭への対策について
  - ア 自立支援教育訓練給付金事業の内容、過去3か年の実績、拡充した経緯とその財源について伺いたい。
  - イ 高等学校卒業程度認定試験合格支援事業が新規に創設されるとあるが、その内容と対象人数、国費について伺いたい。
  - ウ 高等職業訓練促進給付金は支給期間を2年から3年に延長するということだが、過去3年の利用申し込み対象者と給付実績、国費について伺いたい。
  - エ 日常生活支援事業の拡充内容、利用者数、利用者負担について伺いたい。
  - オ ひとり親家庭児童の生活・学習支援モデル事業を新規で行うとしているが、その内容と400万円の予算の使途について伺いたい。
  - カ ひとり親家庭児童の生活・学習支援モデル事業は、半分は国費だと聞いているがそれでよいか。
  - キ ひとり親家庭等の自立支援に係る予算について、627万円の増額で、必要な支援が届くのか、伺いたい。
  - ク ひとり親のうち貧困世帯は1万3千百世帯であり、今回の施策では対象が1,000世帯にも満たない。これでは全く足りないのではないかと、現状認識が違ふと考えるが、見解を伺いたい。
  - ケ ひとり親家庭の方に対して、区役所でどこまで使えるかというアプローチはきちんとしているのか、把握しているか、伺いたい。

コ 所得の低いひとり親世帯に直接的な財政支援をする考えはないのか、副市長に伺いたい。

(4) 貧困の連鎖を断つために

ア 寄り添い型生活支援事業の事業費約7,300万円は主に何に使うのか、また、国費の割合について伺いたい。

イ 生活や学習支援について、実際にそれを必要とする小中学生は何人いると考え、この予算で足りていると考えているのか、根拠を伺いたい。

ウ 市の実態調査から、貧困世帯以下になると、こどもが必要とする本や教材が買えないという数字はかなり厳しくなっている状況が見えてくる。このため、生活支援を行うということになったと考えるが、この点で間違いないか、伺いたい。

エ 全区展開はいつまでに行うのか伺いたい。

オ 世代間連鎖を断つため、市としてどのように分析し、どう解決にむけて取り組んでいるのか伺いたい。

カ 子どもの育ちの環境は孤食や、基本的な生活習慣が乱れていることが窺えるが、この深刻な状態について、どう分析し、対応しようとしているのか伺いたい。

キ 非正規雇用で不安定な状況を改善するように国に求めることが必要と考えるが、副市長の見解を伺いたい。

ク 市の実態調査からも貧困の連鎖を断ち切ることを重要視しているのだから、非正規雇用を減らしていくことについても、国にしっかり提案すべきと考えるが、副市長の見解を伺いたい。

(5) 子どもの貧困対策を統括して、実効性を担保するためには全庁的な統括体制が必要と考えるが、副市長に見解を伺いたい。

2 児童虐待防止について

(1) 「横浜市子ども虐待対応における連携強化指針」をもとに、区と児童相談所の連携はどのようになったのか伺いたい、

(2) 虐待対応調整チームを設置した効果について伺いたい。

- (3) 区や児童相談所の職員の専門性を高めるため、どのように対応しているのか伺いたい。
- (4) 本市の児童相談所における児童心理司の配置状況と、全国児童相談所長会が厚生労働省に要請した「児童心理司を児童福祉士3名に対し2名の割合で配置する。」となった場合、あと何人必要となるのか伺いたい。
- (5) 児童心理司の増員は待ったなしだと考えるが、見解を副市長に伺いたい。

### 3 放課後児童クラブについて

- (1) 国の「放課後児童支援員等処遇改善等事業」の概要について伺いたい。
- (2) 国の制度拡充により、本市の放課後児童クラブの常勤職員の処遇改善事業の予算がどのくらい増えたのか伺いたい。
- (3) 放課後児童クラブの常勤職員の勤続給の加算について、どう検討したのか伺いたい。
- (4) 勤続給加算について、市が独自加算すべきと考えるが、見解を伺いたい。
- (5) 勤続給加算ができない理由を伺いたい。
- (6) 放課後児童健全育成事業において、ひとり親家庭の保護者の負担を軽減している実態についてどのように把握しているのか、それに対しどのように検討したのかについて伺いたい。
- (7) ひとり親家庭における保護者負担の軽減について、市としても助成を検討すべき、また、国にも要望すべきと考えるが、見解を伺いたい。
- (8) 放課後児童クラブを条例基準に適合させるため、どれだけの予算を組んだのか伺いたい。
- (9) 耐震基準を満たさない放課後児童クラブの移転が進めるためには、予算を拡充し、実態に見合った施設を市が提供することも必要と考えるが、見解を伺いたい。
- (10) 場所が見つかって耐震基準を満たさない場合は、市の予算を上乗せすべきと考えるが、見解を伺いたい。

2 伊波俊之助 委員（自民党）

1 こどもの貧困対策について

- (1) 横浜市のひとり親家庭の世帯数、就業率、収入の状況について伺いたい。
- (2) ひとり親家庭への寄り添った支援とは、具体的にどのような取組なのか伺いたい。
- (3) ひとり親家庭への生活や子育て支援の拡充内容について伺いたい。
- (4) ひとり親家庭の自立に向けた本市の取組の基本的な考え方について、副市長に伺いたい。

2 幼児教育について

- (1) 私立幼稚園等預かり保育事業の実施状況について伺いたい。
- (2) 預かり保育を実施している幼稚園からの事業に対する評価について伺いたい。
- (3) 地域型保育事業との連携に対する幼稚園の受け止めについて伺いたい。
- (4) 幼稚園と地域型保育事業の連携促進に向けた取組について伺いたい。
- (要望) 幼稚園・認定こども園を、地域の貴重な保育・教育資源と捉え、横浜市幼稚園協会や各園と協力して、幼児教育の更なる充実を要望する。

3 保育の質の確保について

- (1) 保育所職員の処遇改善の実施内容について伺いたい。
- (2) 保育士の専門性を向上するための研修の実施内容について伺いたい。
- (3) 新設園における園内研修の取組に対する支援の内容について伺いたい。
- (4) 保育の質の向上に取り組むにあたっての局長の決意について伺いたい。
- (要望) 保育士ネットワークの構築事業の更なる充実を要望する。

4 保育所保育料の収納対策について

- (1) 保育所保育料の収納率と収入未済額の3か年推移について伺いたい。
- (2) 未納の保育料について、どのように取り組んでいくのか伺いたい。
- (要望) 徹底した収納対策の推進をするよう要望する。

## 5 放課後の子どもの居場所づくりについて

- (1) 子ども・子育て支援事業計画における放課後児童健全育成事業の目標と進捗状況について伺いたい。
  - (2) 本市が「放課後子ども総合プラン」に先んじて「一体型」放課後事業を推進してきた理由について伺いたい。
  - (3) 横浜らしい放課後の居場所としての放課後キッズクラブのあり方について伺いたい。
- (要望) 安心して楽しく過ごせる放課後の居場所を、全ての子どもたちに提供していただくよう、引き続き要望する。

## 6 妊娠・出産サポート事業の推進について

- (1) 妊娠・出産の現状と課題認識について伺いたい。
  - (2) 産後うつ対策に取り組む意義について伺いたい。
  - (3) 28年度の産後うつ対策の具体的な取組について伺いたい。
  - (4) にんしんSOSヨコハマに取り組む意義について伺いたい。
  - (5) にんしんSOSヨコハマの相談実績と今後の取組について伺いたい。
  - (6) 妊娠・出産・産後の支援をこれまで以上に進めるべきと考えるが副市長に見解を伺いたい。
- (要望) 「にんしんSOSヨコハマ」が利用されるよう若い世代だけでなく、よく市民への広報をしていただくよう要望する。

### 3 鈴木太郎 委員（自民党）

#### 1 学齢後期障害児支援事業について

- (1) 学齢後期障害児支援事業で受け付けた相談はどのような内容が多いのか伺いたい。
- (2) 学齢後期障害児支援事業では、相談者の課題解決にむけてどのように学校と連携しているのか伺いたい。
- (3) 学齢後期障害児支援事業所と学校との連携強化に向けて、本市としてはどのように取り組んでいくのか伺いたい。
- (4) 学齢後期障害児支援事業の実施体制強化の方向性をどう考えているか伺いたい。

#### 2 ひとり親家庭児童の生活・学習支援モデル事業について

- (1) ひとり親家庭児童の生活・学習支援モデル事業の実施目的について伺いたい。
- (2) モデル事業ということだが、今後どのように事業展開していくのか伺いたい。
- (3) 子どもの貧困対策や若者の自立支援などについて、ソーシャル・インパクト・ボンドの仕組みを活用する可能性について、副市長に伺いたい。

#### 3 重症心身障害児者施設について

- (1) 新施設の概要及びその特徴について伺いたい。
- (2) 新施設のスタッフの人材確保の状況について伺いたい。
- (3) 今後の重症心身障害児者の方々の在宅支援をどう考えるのか伺いたい。
- (4) 重症心身障害児者施設、さらには医療機関を含む専門機関の役割分担や連携・協力の考え方について、副市長に伺いたい。

1 地域子育て支援の充実について

- (1) 現在ある常設の親子の居場所の数について伺いたい。
- (2) 常設の親子の居場所を増やすにあたっての課題は何か伺いたい。
- (3) 地域ケアプラザや地区センターなど、すでにある市民利用施設を活用して親子の居場所の充実を図っていくべきと考えるが、見解を伺いたい。
- (4) 地域全体の子育て支援を充実させるため、施設間の連携や子育て支援を担う人材の育成に向けた取組について伺いたい。

2 マンション内保育室の整備について

- (1) マンション内保育室のねらいについて伺いたい。
- (2) マンション内保育室を進める上での課題に対し、どのように対応するのか伺いたい。
- (3) マンション内保育室の今後の展開について伺いたい。

3 認定こども園の支援について

- (1) 認定こども園を積極的に推進すべきと考えるが、見解を伺いたい。
- (2) 現在の認定こども園設置者は、新制度についてどのような受け止めをしているか伺いたい。
- (3) 幼稚園から認定こども園への移行をどのように進めるのか伺いたい。

4 保育士確保について

- (1) 27年度はどのような保育士確保の取組を実施しているのか伺いたい。
- (2) 保育士修学資金貸付事業を新たに実施することにより、どのような効果があると考えているのか伺いたい。
- (要望) より一層の保育士確保策の検討を要望する。

## 5 放課後事業について

- (1) 放課後キッズクラブ転換の進捗状況について伺いたい。
- (2) 予算案に盛り込まれた放課後事業の質の確保・向上のための取組について伺いたい。
- (3) 障害児を受け入れるために行う支援の取組について伺いたい。
- (4) 放課後児童クラブにおける基本開所時間の延長はなぜ必要なのか伺いたい。
- (5) 放課後事業の質をさらに充実させるべきと考えるが、見解を伺いたい。

## 6 地域ユースプラザ事業・応援パートナーの養成・派遣について

- (1) 地域サポートモデル事業の実績について伺いたい。
- (2) 地域サポートモデル事業の取組を現時点でどのように評価しているのか伺いたい。
- (3) 28年度に応援パートナーをどのように養成・派遣していくのか伺いたい。
- (要望) 応援パートナーの取組を他の区にも展開して、横浜全体で若者を応援する環境を作っていただくよう要望する。

## 7 寄り添い型生活支援事業について

- (1) こども青少年局が実施している寄り添い型生活支援事業と健康福祉局が実施している寄り添い型学習支援事業との違いについて伺いたい。
- (2) 生活支援事業に加えて学習支援を実施することに伴い、区では適切な支援をしていくためにどのように取り組んでいくのか伺いたい。
- (3) こども青少年局と健康福祉局とはどのように連携していくのか伺いたい。
- (4) 28年度新規設置か所の考え方について伺いたい。

1 待機児童対策について

(1) 報道されている「保育園落ちた、日本死ね」の内容に関する所感について伺いたい。

2 国家戦略特区を活用した都市公園内の保育所等整備について

(1) 国家戦略特区制度及び特区を活用した都市公園内の保育所設置の概要について伺いたい。

(2) 都市公園内への保育所等設置の基本的な考え方について伺いたい。

(3) 関係局との連携を含めた現在の検討状況について伺いたい。

(4) 今回設置する候補の公園及び設置する保育所の概要について伺いたい。

(5) 国家戦略特区制度を活用した保育所等設置の今後の展開について伺いたい。

(要望) 都市公園内の保育所等設置については、地域全体の子育て支援に資する取組としていただくことを要望する。

3 保育所のマネジメントを担う人材の育成について

(1) 現在民間の園長などに対して横浜市ではどのような研修を行っているのか伺いたい。

(2) それぞれの園の中で保育士の人材育成を担える職員をどのように養成していくのか伺いたい。

(3) 新たに開所する保育所等が円滑にスタートできるようなように支援するのか伺いたい。

4 待機児童対策における定員割れへの対応について

(1) 保育所等で定員割れが生じる理由について伺いたい。

(2) 待機児童対策における貴重な資源を有効活用できるような定員割れへの対応について伺いたい。

(要望) 中期的な視野に立った対策を進めていただくよう要望する。

## 5 子どもの貧困対策について

- (1) 「横浜市子どもの貧困対策に関する計画」を推進していくにあたって、こども青少年局の果たす役割は何か伺いたい。
- (2) 寄り添い型学習等支援事業の生活・学習支援型の27年度における実施状況とその評価について伺いたい。
- (3) 新規に設置していく上での課題と今後の事業展開の考え方について伺いたい。
- (4) モデル事業を新たに立ち上げた背景と事業の特徴、実施方法について伺いたい。
- (5) 子どもの貧困対策の施策展開にあたり、支援を確実に届けるための基本的な考え方について、副市長に伺いたい。

## 6 子ども・子育て支援新制度施行後の放課後児童クラブのあり方について

- (1) 新制度施行後、放課後児童クラブが本市施策においてどのように位置付けられているのか伺いたい。
  - (2) 分割・移転が思うように進まない状況の中で、課題解決のために市としてもっと寄り添った支援をすべきと思いますが、見解を伺いたい。
- (要望) 子ども・子育て支援新制度の趣旨に沿い、利用者のニーズを適切にとらえた施策の展開を要望する。

1 市立保育所民間移管事業について

- (1) 保育園の民間移管により、保育所を利用する皆様にとって、具体的に何が変わるのか伺いたい。
- (2) 移管後の保育所運営について、保護者の皆様の満足度はどうなのか伺いたい。
- (3) これまでの市立保育所民間移管により、どれほどの財政縮減効果があったのか伺いたい。
- (4) 民間移管を計画より早めることについて見解を伺いたい。
- (要望) 民間移管した施設が安定的に運営でき、また乳幼児を持つご家庭が、安心して横浜で子育てができるための政策も併せて推進する事を要望する。

2 保育士不足への対応について

- (1) 本市における保育士不足の現状について見解を伺いたい。
- (2) 国の特例措置に対する本市の検討状況について伺いたい。
- (要望) 今回の省令改正を活かし、今後は保育の量的な拡充だけでなく、保育の質を向上し、保育園づくりをして頂くことを要望する。

3 ダブルケアと横浜子育てパートナーについて

- (1) こども青少年局としては、今後、「ダブルケア」についてどのように取り組んでいくのか、また、入所選考基準の改善の必要性について伺いたい。
- (2) 横浜子育てパートナーを配置した目的は何か伺いたい。
- (3) 横浜子育てパートナーの業務を開始するにあたって実施した研修内容について伺いたい。
- (4) 多様化する相談に対応していくため、今後の横浜子育てパートナーの人材育成について伺いたい。
- (5) ダブルケアの相談対応件数の統計を取っているのか伺いたい。

#### 4 父親育児の推進について

- (1) 27年度までの父親育児支援の取組について伺いたい。
- (2) 父親向け子育て支援講座を新たに実施する目的、事業内容及び受講予定者数について伺いたい。
- (3) 子育て支援講座の開催にあたっては、保育園や幼稚園を通じて事業の周知を行うなど、乳幼児を持つ父親の参加を増やす工夫を行うべきと考えるが、見解を伺いたい。
- (要望) 柔軟に新たな手法も研究し、父親の育児や家事への関わりが地域レベルでさらに広がっていくよう、引き続き努力していただくことを要望する。

#### 5 困難を抱える若者支援について

- (1) 若者サポートステーション高校出張相談のこれまでの実績、相談内容について伺いたい。
- (2) 高校出張相談の効果についてどのように認識しているのか伺いたい。
- (3) 若者サポートステーション高校出張相談を進めていく上での課題は何か伺いたい。
- (4) 若者サポートステーションを含む相談支援機関の情報を生徒に届けるためにどのように取り組んでいくのか伺いたい。
- (要望) 若者支援のスキルを持つ若者サポートステーションならではのスキル・ノウハウを活かして、さらに困難を抱える高校生の支援にも力を入れていただくことを要望する。

1 子どもの貧困対策について

- (1) こども青少年局の役割を果たしていくうえでの課題をどのように捉えているのか伺いたい。
- (2) 共通認識を高めるということが課題であるということか伺いたい。
- (3) 地域でこどもを見ていこうといった気運も生まれてきており、それを高めるような施策を含め、P D C Aサイクルを短時間でまわして行く必要性を感じるが、見解を伺いたい。
- (4) 支援の手からこぼれおちる人をキャッチする方策を考えているのか伺いたい。
- (5) 横浜市には4種類のヘルパー派遣事業があるが、それぞれの特徴について伺いたい。
- (6) 産前産後ヘルパー制度を利用できない方々はどのようにして支援を受ければいいのか伺いたい。
- (7) 子育てサポートシステムの現在の利用会員数と提供会員数について伺いたい。
- (8) 子育てサポートシステムの担い手の確保は今後大きな課題であり、既に予見できていると考えるが、見解を伺いたい。
- (9) 育児支援ヘルパー、養育支援ヘルパーそれぞれの派遣回数について伺いたい。
- (10) 育児支援ヘルパーの利用が増えない理由をどのように分析しているのか、実際に利用されているのをどのように把握しているのか、分析をしていないのであれば、今後事例の収集・ヒアリングを進め、対策に活かすべきと考えるが、見解を伺いたい。
- (11) 支援を求めているも受けられない方が、育児支援の制度を利用できるよう、柔軟な展開も検討すべきと考えるが、見解を伺いたい。

2 虐待ホットラインについて

- (1) 虐待ホットラインの過去3年の受電件数について伺いたい。
- (2) 「よこはま子ども虐待ホットライン」を神奈川県内に限定しているのはなぜか

伺いたい。

(3) 虐待ホットラインについて、県外で市民が利用することを想定すべきと考えるが、難しいことなのか、伺いたい。

(4) 現在の虐待ホットラインの体制はどのようになっているのか、伺いたい。

(5) 虐待ホットラインの利用範囲を県外に広げることは予算に関係がなく、すぐにできることと考えるが、今後の対応を伺いたい。

8 大 桑 正 貴 委員（無保会）

1 産前産後ヘルパー派遣事業について

- (1) 産前産後ヘルパー派遣事業の利用状況について伺いたい。
- (2) 産前産後ヘルパー派遣事業の目的と効果について伺いたい。
- (3) 産前産後ヘルパー派遣事業の利用促進に取り組むべきと考えるが、見解を伺いたい。

2 地域療育センターについて

- (1) こども青少年局として個別支援学級の現状をどのように認識しているか伺いたい。
  - (2) 学校支援事業のうち個別支援学級の教員に行う支援はどのような内容か伺いたい。
  - (3) 全ての教員の障害理解を深めるために、地域療育センターの専門性を活かし、さらに連携をすすめるべきと感があるが、見解を伺いたい。
  - (4) 地域療育センターにおける小学校就学に向けた保護者への支援を強化すべき、と考えるが、見解を伺いたい。
- (要望) 地域療育センターと学校双方が連携を深め、横浜ならではの強みを活かしながら、子どもの最善の利益を確保するための取組を、さらに進めていくことを要望する。
- (要望) 就学にむけた保護者の不安を受け止め、障害のあるお子さんがスムーズに小学校生活をスタートさせることができるよう、教育委員会と連携して取組を進めることを要望する。